

ヒメユズリハ

Daphniphyllum teijsmannii Zoll. ex Kurz

岡山県：準絶滅危惧

環境省：該当なし

被子植物門 双子葉類 離弁花群

ユズリハ科

選定理由

産地が限られ、場所によっては個体数が非常に少ないところがある。特に本土側の生育地は、島しょ部の生育地に比べ人手が加わる可能性が高く、今後の推移を注意深く見守る必要がある。

存続を脅かす要因

海岸開発、産地局限

分布状況

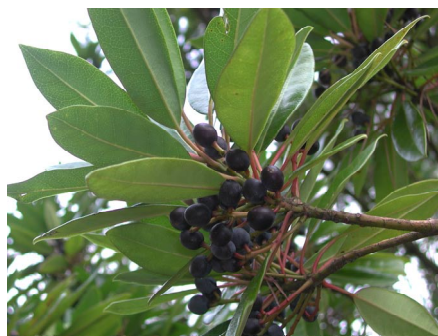
岡山県では瀬戸内海の島しょ部と本土側沿海地に生える。国内では、福島県以西の本州、四国、九州に分布する。

生育情報

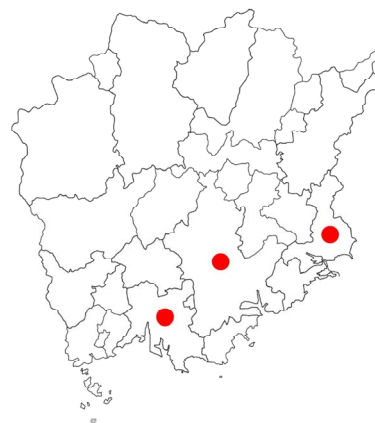
高さ10mになる常緑小高木。葉は互生、葉身は狭だ円形からやや細く、長さ4～15cm、側脈は8～10対、明瞭な網状脈がある。雌雄別株。花期は5～6月。がく片は3～6個、花弁はなく、雄花は褐紫色のやくが、雌花は淡黄色の柱頭が目立つ。果実はだ円形で長さ8～9mm、紺色に熟す。同属のユズリハは、がく片がないか、あっても1～2個、葉は大きくて長さ15～20cm、側脈は16～19対ある。

文献番号 73, 126

(狩山俊悟)



撮影：狩山俊悟



ヒナノキンチャク

Polygala tatarinowii Regel

岡山県：絶滅危惧Ⅰ類

環境省：絶滅危惧ⅠB類

被子植物門 双子葉類 離弁花群

ヒメハギ科

選定理由

岡山県内で現存するのは1カ所のみ、個体数もきわめて少ない。一年草ということもあり、生育は安定していない。生育場所が道端であることから、人為的影響を受けやすく、道路拡幅工事などでは一挙に絶滅してしまう危険性が高い。全国的にも絶滅、あるいは危険度の高いランクとなっている。

存続を脅かす要因

道路工事、草地開発、業者・マニア採取（園芸採取）、管理放棄、産地局限

分布状況

県内では2カ所の生育地が知られていたが、現在では中部の石灰岩地の1カ所に生育するのみである。日当たりの良い道路脇の石灰岩上や割れ目、また地面に生育するが、ごく狭い範囲にしか見られない。県外では本州（東北地方以西）、四国、九州に分布する。

生育情報

高さ4～15cmの一年草。茎はほとんど無毛、基部でしばしば分枝する。葉は数個、ふちに細毛があり、長さ1～3cm、短い柄がある。枝先に長さ約2mmの淡紫色の花を総状につける。花期は7～10月、下から順次咲きあがり、花期は長い。果実は片側につき、円形、偏平で径約3mm。

文献番号 4, 72, 121, 129

(地職恵)



撮影：地職恵

